


6月4日

イブネ

平尾 繁和

山名	イブネ (1,106m)		山行名	例会		
ルート	甲津畑～桜地蔵～蓮如上人旧跡～杉峠～イブネ～クラシ～イブネ～杉峠～蓮如上人旧跡～桜地蔵～甲津畑					
山行日	2022年6月4日(土)		天候	晴れ		
参加者	CL 平尾、SL 徳田、伊藤多、染矢、永井、西川洋、林 /7名					
ルート概略図	コースタイム					
	地名		時:分	地名		時:分
	甲津畑	着	7:35	クラシ	着	12:00
		発	7:50		発	12:05
	桜地蔵尊	着	8:48	イブネ	着	13:05
		発	8:49		発	13:10
	蓮如上人旧跡	着	9:35	杉峠	着	13:48
		発	9:38		発	13:53
	杉峠	着	10:50	蓮如上人旧跡	着	14:55
		発	10:55		発	15:05
	イブネ	着	11:44	甲津畑	着	16:25
		発	11:45		発	
	<p>6:10 京田辺を出発、名神八日市ICから東近江市甲津畑へ。直進の集落内は狭いので左折し林道に入る。岩谷林道登山口の手前には数台が駐車。下見(5月初)時の20台以上とは大違い。鈴鹿の奥座敷といわれアプローチが長く知る人ぞ知るの山だったが、鈴鹿10座(東近江市選定)に入り最近人気が出てきたようである。渋川左岸の林道をゆるやかに登っていく。信長も通った往年の千種街道で、善住坊の隠れ岩などを過ぎ桜地蔵尊まで約1時間。右岸に渡り山道に入る。大峠(イハイガ岳方面)の分岐を右に見てすすむ。老朽化した板が外れかけた木橋を数回渡り、崖下に滝や清流を眺める。カエデなどの新緑が逆光に照らされまばゆい。樹林のなかを行くとやがて蓮如上人旧跡につく。井戸と石碑があり、追手から隠れて難を逃れたという炭竈を覗く。すぐ先に大シデ(カバノキ科)があり、その節くれだつた姿に年月を経た風格を感じる。やがてシデの並木の標識をみて巨樹の間を通る。さらにいくと「一反ぼうそう」の標識がある。枝を広げた広さが一反あったという大きな木があったそうだが、すでに倒れてかつての姿は見られなかった。狭い崖路に湧く最後の水場を少し行くと開けた杉峠に到着した。右は雨乞岳への道、真直ぐ下れば千種街道を朝明溪谷へ行く。イブネは左手の緩やかな尾根筋を登っていく。少し登りふりかえると雨乞岳のどっしりした姿や、御在所岳などが見渡せる。ブナやツツジの咲く気持ちのよい明るい樹林の間を抜けていく。佐目峠を右へ下り前の小山を一つ二つ越えると平原のイブネ山頂にでる。そこは一面コケの絨毯。こんな山上になぜコケが繁茂しこんな景観が生まれたのかその不思議さを感じながら、北端からクラシへ向かう。右手には国見岳、御在所岳、鎌ヶ岳から水沢尾根、雨乞岳が一望、四日市の市街から伊勢湾も霞んで見える。左に目を転じれば湖東平野に三上山、琵琶湖も望める。まるで天上の楽園のようだ。クラシはブナ林の先のシャクナゲの中の小ピーク、写真を撮って引き返し、イブネ北端へ上がる手前のイヌブナの木陰で昼食をとる。目の前のコケの合間にはテントを張り始める登山者の姿。引返す途中も若い人の一団がテントを担いでくるのに出会う。人気の山になりつつあることを実感した。7人の足もあい長い帰路も順調にすすみ、16時25分予定通りほぼコースタイムで戻ることができた。登山口ではコアジサイが咲き、杉峠の手前ではフタリシズカが咲き出していた。山上ではタニウツギ、ヤマツツジが満開、咲き残りのシロヤシオが一輪、足元にはサラサドウダンの落花が見られた。下見の時にはヤマシャクヤク、フデリンドウ、ギンランなども咲いていた自然豊かな山域だった。ヒルを警戒して対策を呼び掛けていたが出会わずに済んだのは幸いだった。 標高差 760m、16.5km、8時間35分、累積標高差 1,320m (下見時)</p>					
	ヒヤリハット なし					



大シデの木



杉峠



イブネ



クラシ



シデの並木



蓮如上人旧跡



シロヤシオ



イブネ



雨乞岳



御在所岳、鎌ヶ岳



カマツカ



コアジサイ



咲残りのシロヤシオ



シロヤシオの葉 紅の縁取り



タニウツギ



ヤマツツジ



サラサドウダン 落花

## イブネ 感想

林 尚子

○清流から運ばれる爽やかな空気と音に包まれ心地よいコースでした。点在する歴史を感じる住居跡の石垣、それらを飲み込んでゆく自然の生命力を感じながら登りきるとパッと目の前が明るくなり杉峠へ。さらに登ると、西川さんの「庭園みたいやな」という言葉がまさにぴったりのコケの庭園が晴天下に輝いており、先程とは別世界が目の前に広がりました。そこは、まるでファンタジー映画のシーンに突然放り込まれたような光景でした。たった今、自分がいるはずのこの山に、再度訪れたいという思いが湧き上がり、テント泊の準備をする方を見ると羨ましくなりました。イブネを知ることができ、心から楽しむことができたのは、平尾さんと徳田さんのおかげです。本当にどうもありがとうございました。車の運転をしてくださった西川さん、さりげなくお気遣いをくださる先輩の皆さまに感謝いたしました。今回もどうもありがとうございました。

伊藤多恵子

○南北アルプスのガイドブックなどに、「雲上の樂園」という言葉を見ることがあります。イブネの頂上も「雲上の…」とまでは言えなくても、「山上の樂園」と言ってもいいのではと思います。  
杉峠までの3時間はダラダラ上りで、数字だけ聞くと退屈しそうだが、アスファルトの林道歩きを過ぎると、沢沿いに広葉樹の明るい道が続く。次第にシデなどの巨樹とも出会うようになり、澄んだ流れに緑のシャワーと、見飽きることがない。ほとんど急な上りを感じないまま杉峠へ。雨乞岳を右に見る四つ辻には風が吹き通って気分爽快。空は青く、空気はカラリと心地良い。杉峠から鮮やかな赤色の山ツツジを樹間に眺めながら尾根道を進み、途中、初めての急登を越えると再びなだらかな尾根道になり、明るく広々とした山頂部に達する。そこからは黄緑色の苔の絨毯が点在する自然の庭園。そこに、比良の釈迦岳で見たシロヤシオの木がたくさん生えている。残念ながら花はほとんど落ちていて、たった一つ残った花を見られたのが幸いだった。

御在所岳や鎌ヶ岳も近々と眺められる。山頂部から「クラシ」と名付けられたピークに向かう途中の斜面がまた素晴らしい。巧まずして自然が作り上げた美しい苔の世界だ。誰もかれもが、感激の言葉を惜しみなく出す。お昼ごはんもここで。

下りの道では、テント泊の若者が続々と登って行くのに出会う。山上で星を見ながら眠るのだらうな。いいなあ～。

終始、快調なペースでリードしてくれたSLのTさん、最後尾から見守ってくれたCLのHさん、今まで知らなかった山の表情を見せて頂いて感謝・感激です。

染矢つや子

○「イブネ」聞きなれない3文字に引かれ参加

杉峠から南に40分で名の知れた「雨乞岳」北に1時間20分で山友会例会初の「イブネ」まずはよくぞ探してこの山に案内して下さった事に感謝します。

杉峠までの登山道は道幅広く（一部狭いところあり）安全で、尚且緩やかで徐々に高度を上げていく。新緑の「紅葉」が太陽の陽を浴び一段とキラキラ美しく、気持ちよく歩かせてもらった。

ハーハーするような急登もなく、いよいよ「イブネ」の標識に到達。苔の絨毯が延々と続く山上の別天地！ 「鈴鹿の奥座敷」と呼ばれる事に納得。頂上でこんな景色見たことない、心躍る、「ヤッホー」 「是非、一度行って見て下さい」と教えたくくなりました。7名の足並み揃い、好天、距離もあり、しっかり歩かせて貰った充実山行でした。

永井 繁一

○甲津畑登山口から千草街道で杉峠を目指す。前半は緩やかな登りが続く登山道。途中、“杉谷善住坊のかくれ岩”や桜地蔵尊を通過して、沢や溪流を渡り返しながら高度を上げて行く。

更に進むと蓮如上人が隠遁したと伝承のある御旧跡が現れる。まさに歴史街道。この辺りから道はガレはじめ傾斜も厳しくなるが、先に行く女性陣はスピードを落とす事なく登っていく。私はついて行くだけでイッパイ イッパイ。凄いの一言である。杉峠に立つと南にそびえる雨乞岳が目飛び込み、圧倒される。千草街道と分かれイブネへ向かう。

山頂は、一面苔で覆われた絨毯台地、思わず息をのむ美しさである。また南東に展開する、尖った山容が印象的な鎌ヶ岳や御在所岳など、鈴鹿の雄大な景色も満喫できた。天気に恵まれ、何とも言えぬ景色に出会えた大満足の山行でした。計画・準備して頂いたCL・SLさん、ご一緒して頂いた皆さん、ありがとうございます。ありがとうございました。

